

## 「教員の養成の目標及び計画」

京都教育大学は教員養成を主たる役割とする単科大学として、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養うとともに、教育専門職に必要な資質、能力を有する人材の養成を行うことを社会的使命とする。また時代・社会の動向を視野に入れつつ、教育研究活動を通じて教育に関する諸問題の解決に的確に貢献できるよう努める。さらに、様々な特徴を持った7附属学校を有する特色を活かし、学校教育と教員養成に関する実践的研究を推進することにより、教員養成の未来像を追究する。こうした大学としての理念を踏まえ特に以下の事項について重点的に取り組む。

○教育学部、教育学研究科・連合教職実践研究科の6年間を見通した教育を行い、教育に関する深い理解を培うとともに、現代的教育課題に対応できる資質能力を備えた実践的指導力を有する教員の養成に努める。

○市民としての社会的責任を自覚し、教職に就く者にふさわしい、ひとときわ高い倫理観及び人権尊重の意識を有した人材を養成する。

◎教育学部は、高い倫理観と人権意識の基盤の上に、教養高き人としての知識、情操、態度を育成し、学校教育、社会教育、生涯学習等の広い教育分野で地域社会に貢献できる人材を養成することを目指す。

○高度な教育実践力を形成することにより、21世紀を迎えてますます多くの課題をかかえている学校教育をはじめとする教育分野で地域社会に貢献できる人材の養成。

○教職関連科目、実地教育、教職キャリア指導のそれぞれの体系化と相互の有機的関連を図り、学部段階に求められる実践的指導力の育成。

◎教育学研究科は、学士課程における教育あるいは教職経験の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、教育関係諸科学の研究を深めることにより、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者を養成することを目的とする。

○学校教育における教科や教育課題を基軸として、高度の専門的知識と優れた能力を有する教育者を育成する。

○それぞれの教科や現代的教育課題に関する豊かな知識と優れた分析力及び実践力を有する教育者を育成するための教育と研究をおこない、学校教育において指導的立場に立ちうる人材を養成する。

◎連合教職実践研究科は、学士課程における教員養成教育と現職教員の教職経験の上に、教育の理論と教職実践を深く追究させることにより、教職に関する高度専門的な知識と実践的指導力を統合的に有する教員の養成を目的とする。

○高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員の養成

○社会の変化に対応し、多様な教育課題を解決できる教員の養成

○理論と実践の融合を図る教育による実践的指導力を高め続ける教員の養成

○現職教員の入学者については、より高度な実践力と応用力、スクールリーダーとしての指導力を養う。